

花の上野公園ぶらぶら歩き

藤原 道夫

改修された上野駅公園口を出て鶯谷方向にすすむ。3月末のひる前、花の上野公園ぶらぶら歩きのはじまり、思えば3年ぶりだ。科学博物館裏の**天城吉野**は満開、白っぽい花が柵から乗りだしている。信号を渡り寛永寺輪王殿の横から境内へ、ほぼ満開の**八重紅枝垂**が出迎えてくれる。昔のしもた屋風の小さな門（幸田露伴旧宅のもの）をくぐると輪王寺境内、枝を拡げた大きな**御車返**の樹が目にとびこんでくる。花びらが未だしっかり開いていないが、美しい色合いはでている。ミツバツツジの赤紫色の花も時節通りに咲いていた。

博物館入口に、春休みを利用した見学会でもあるのか、大勢の若者がたむろしている。例年の催し物「博物館でお花見を」はパス、裏庭にある珍しい桜の様子が気になる。

公園の右手奥に桜らしい木を見つけ、行ってみると**ヤマザクラ**の若木だった。傍らに「上野恩賜公園設立130周年記念に吉野の金峯山寺から贈られた」と書いてある。ヤマザクラは好きだ、白っぽい花と茶色の新芽とのとり合わせがなんとも風雅な趣である。

動物園前にある**エドヒガン**はほとんど散っている。記憶をたどって文化会館の方に、広場の角で美しい花を沢山つけている桜に再会、以前見た時より背丈が大分伸びている。木の傍でスーツ姿の人が数人、案内人の説明に聞き入っている様子。この桜は**舞姫**といい、「日本花の会」が数年前に創設50周年を記念して作出・命名し、ここに植えた。八重紅枝垂の実から育てられた品種で、花の形も色も親にそっくり。近くに**小松乙女**が可憐な花をつけていた。

桜並木に向かう。対面通行になっている道を静かに歩く人たち、結構な人出だ。花びらが降りかかってくる。かつてよく見かけた席取りの可哀そうな若い会社員はいない。今年もご座を敷いての花見は禁止だ。昔は並木の桜が枝を張り、トンネルのようになって空があまり見えなかったように記憶しているが、今は満開の花の間に空が拡がっている。樹が大きく育ち、横に張る太い枝が切られたせいか。

途中で左手に折れ、清水観音堂に。脇にある**八重紅枝垂**は2本ともほとんど枯れ、小枝に少しばかり花がついている。期待していただけにがっかり。正面の若木は花盛りだ。道を隔てて**吾清水**が咲き始め、**陽光**の花は散っている。御堂欄干から望む景色がなかなかよい。花の群れの上に池に囲まれた弁天堂が浮きでたように見え、参道の賑わいも一部見てとれる。

西郷さんをちらりと眺めてゆっくり階段を降りる。下にある立派な**糸桜**はほとんど散ってしまい、左右2本の**大寒桜**はもう葉桜に。

さまざまな桜花を楽しむとともに、季節は確実に移ろい年を重ねてゆくことを実感する上野公園ぶらぶら歩きだった。